

令和2年度 県立伊奈特別支援学校 自己評価表

目指す学校像	◆生き生きと楽しく学べる学校 ◆安全・安心に生活できる学校 ◆信頼され開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>・自立活動の流れ図の作成と活用に関する研修を通して、根拠のある自立活動の指導の充実に努めた。課題としては、自立活動の時間における指導と密接な関係を図った各教科等の指導の充実が挙げられる。また、ICTを活用した学習指導の一層の充実を図るため、タブレット端末を活用した授業例の蓄積や研修の充実が必要である。</p>	<p>創意工夫のある授業</p>	<p>① 客観性を伴う実態把握(アセスメント)と適切な評価 ② 自立活動の目標設定におけるプロセスの可視化 ③ ICT機器の効果的な活用 ④ 自立活動の視点を踏まえた教科指導等の一層の充実 ⑤ 教員のキャリアアップを図る校内研修の充実</p>	<p>B</p>
<p>・各部の教育課程の検討や見直しをカリキュラムマネジメント推進委員会を中心に行った。より一層の系統的な学習内容の工夫や指導の改善を行っていきたい。</p>	<p>自立と社会参加に即応した教育活動</p>	<p>⑥ 学習指導要領の目標を軸にした学習指導の充実 ⑦ カリキュラム・マネジメントによる教育課程の充実 ⑧ 児童生徒の実態及び各部の系統性を踏まえたキャリア教育の推進 ⑨ 小学部からの就労体験学習の確立(校外学習・ごっこ遊び～現場実習) ⑩ 外部専門家による指導の改善と専門性の向上</p>	<p>B</p>
<p>・月1回のいじめ防止対策会議や保護者・児童生徒のアンケートを年間5回実施し、結果内容に応じて個別指導等を行った。また、長期欠席をしている児童生徒に対しては、必要に応じて外部関係機関と連携を図るなど体制が整ってきた。 ・感染症対策やけが等の予防の徹底が課題である。</p>	<p>安全・安心な学校環境</p>	<p>⑪ 感染症対策やけが等の未然防止及びいじめ問題や体罰のない学校づくりの推進 ⑫ 安全な登下校に向けた指導の充実と体制整備 ⑬ 各種災害や緊急時等に即応したスキルの向上 ⑭ 地域や関係機関と連携した防災体制の充実 ⑮ 食育教育の一層の充実</p>	<p>B</p>
<p>・地域の小中学校等への巡回相談は単発の依頼が多いため、電話連絡やアンケート等を行い、支援方法について検討する情報を収集していきたい。さらに、校内支援体制の充実や個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用についても支援できるように進めていく。</p>	<p>開かれた学校</p>	<p>⑯ インクルーシブ教育システムに向けた幼保、小、中、高等学校への支援 ⑰ 交流及び共同学習の積極的な実施と内容の充実 ⑱ 文化・スポーツにおける学校内外での活動の充実 ⑲ 学校教育活動の地域への公開及び情報発信 ⑳ PTA活動行事の充実</p>	<p>B</p>
<p>・各種会議については、事前に議題集約をしたり、報告時間を設定したりすることで、効率化を図ることができた。また、学習指導案及び教材教具等のデータベース化、校務分掌系の業務マニュアルの整備を進めた。今後は有効活用を図りながら、より使いやすいシステムへと改善していく。</p>	<p>働き方改革の推進</p>	<p>㉑ スクールサポートスタッフの有効活用 ㉒ 会議の効率化や業務のスリム化等による退勤時間の厳守 ㉓ 教材教具等のデータベース化及び業務マニュアルの整備と有効活用</p>	<p>B</p>

※評価基準(県教育委員会) A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

◆ 校務分掌 A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策	
各教科・領域	日常生活・遊び	全職員が簡単に教材の保管場所や使用方法を把握できる教材のデータベースを作成する。	・チェックシートを使用して教材の整理・点検を行う。写真付きの教材を紹介するページを作成する。	⑧⑫	B	・教材整理をした際に保管場所に戻されていないものもあったため、定期的な整理整頓を行い、使いやすいように教材管理を行う。 ・自作の教材も紹介していくことで、教材の共有化を図れるようにしたい。
	生活単元・総合	教材のデータベース化を進め、教材教具をさらに活用することができるよう促す。	・教材教具の整理や、所在確認などを年間2回程度行い、使用したいものがすぐに見つけられるようにする。教材のデータベース化を進め、活用方法や保管場所などの周知を図る。	④⑫	A	・今年度分の教材のデータベース化は完了したが、定期的に教材教具の整理整頓を行い、活用方法などを共有化していきたい。 ・年間1回点検所在確認を行った。次年度は確認する機会を増やしていきたい。
	作業学習・職業	教材の名称や使い方を必要に応じてデータベース化し、紹介していくことで、教材のさらなる活用を促す。	・年間2回教材整理を行い、所在の確認や点検をする。破損しているものや著しく老朽化しているものについては修理や廃棄手続きを行う。使用可能かつ、全職員で活用できそうなものについてはデータベース化する。	⑧⑫	B	・木工室にある教材・教具をメインに写真や保管場所、使い方をまとめてデータベースに登録した。次年度は美術室や窯業室にある教材・教具をデータベース化し、全職員に周知できるようにしていく。
	国語・外国語	教材データベースを活用し、教材教具の有効活用を促す。	・学期ごとに、各学部会で教材データベースの周知を行う。また、定期的に教材室の整理整頓を行い、必要な教材がすぐに見つかるようにしておく。	④⑫	B	・必要とする教材が無く、活用に繋がらないことがあった。改善策として、授業で活用したい教材についてアンケートを取り、要望があったものを購入することで、必要な教材を提供できるようにしていく。
	算数・数学	保管棚(小会議室)に各教材教具の名前を表記することで、活用しやすい環境を整える。	・保管している教材教具の名前や写真などを保管棚の外側に掲示し、どこに何があるのか分かりやすくする。また、定期的に所在の確認をする。	⑧	A	・保管棚に教材の名前と写真を掲示した。次年度の課題として、保管棚内の整理と効果的な貸出簿の活用方法を考えていく。
	音楽	楽器の保管場所の精選を行い(特別棟音楽室, 中学部棟音楽室), 教材教具の有効活用を促す。	・音楽室2ヶ所の楽器の割り振り(中学部で使用する楽器→中学部棟音楽室, 小・高等部で使用する楽器→特別棟音楽室)を行う。 ・ポーターターンはナンバリングし、音楽室で保管する。 ・特別棟音楽室の楽器は、保管場所に写真を貼り、視覚的に分かりやすくする。	⑧	B	・感染症対策で使用する楽器が限られたため、迅速にポーターターンを補充した。今後も状況に合わせて使用できる楽器を考慮した授業の提案をする必要がある。
	図工・美術	全職員が簡単に教材の保管場所や使用方法を把握できる教材データベースを作成する。校内作品展示の充実を図り、作品作りへの意欲喚起や、作品をとおした情報発信を行う。	・特別棟1階の教材室を7月までに整理して、教材を使いやすくする。9月までに絵画・版画・デザイン・工作・展示別に教材のデータベースを作成する。 ・校内における作品展示の充実を図る。校長室前の廊下をはじめ、管理棟や各部の昇降口、階段の踊り場等、常時展示する場所の設定や作品のローテーションを行う。	⑧⑬⑫	B	・夏季休業中に教材室の整理を行い、教材のデータベースを進めることで、ハード面とソフト面の両方で図工・美術の教育効果を高めることができた。 ・管理棟廊下、各学部において、児童生徒作品を常設展示する計画だったが、小学部と高等部では展示スペースを設けることができなかった。
	保健体育	各保健体育科の行事について、感染症や安全に留意して実施できるように、対策について管理職、各担当と検討をおこない共通理解を図るようにする。	・各行事の担当を配置し、安全面や感染症対策についてチーフを中心に検討し、企画運営を行うようにする。 ・校外での行事については、安全面と感染症対策に関して、運営本部・主催の指示をうけて本校管理職と対応を検討し、実施計画を作成する。	⑧	B	・コロナ対策について、各学部体育担当者と協力して、授業の実施の仕方について県の指示どおり対応できるように努めた。 ・備品について、体育館のボールが傷んでおり、備品の入れ替えの対応が遅くなってしまった。来年度に引継ぎ対応を行っていく。
	家庭	調理室の衛生的な利用について、係全員で校内への周知に努める。	・調理実習前の手の衛生についてペーパータオルでふき取ることや、実習後の調理室の清掃の徹底、検食の正確な保存方法の周知を職員会議等を利用してアナウンスを行う。	⑧	B	・コロナ対応のため、調理はできなかったが、食器の衛生的な管理や、手洗いの学習として食器を洗った途にペーパータオルを利用する学習を行った。次年度も感染症に対する配慮をした学習を提案したい。
	道徳	各学部の系統性について確認して係全体で具体的授業内容を共有する。	・該当学年が実際に学習指導要領を参考に授業を実施し、その学習状況と成果を係り会で年間2回情報を共有する場を設ける。	⑧	C	・対象となっている各学部、学年は授業を実施し、児童生徒の学習状況の情報を共有することができた。 ・学習内容で各学部共通する部分が多くみられたことから、今後体系的な計画を立てていけるよう検討していきたい。
自立活動	全職員が自立活動の教材を活用できるように、教材の保管場所や使用方法を記載した教材データベースの整理を行う。	・昨年度から作成している写真付きの教材紹介ページの所在を明らかにし、職員会議等を通じて全職員に知らせる。	⑧⑫	B	・データベースに載っていない教材をデータベースに追加し、さらに教材教具名と保管場所のみを記載した教材教具一覧を作成した。 ・教材室の棚を、どこに何があるかが一目で分かるように整理整頓し、教材を出し入れしやすくすることが課題である。	

教務部	企画係	職員会議等の効率化やスクールサポートスタッフを有効活用し業務の効率化を図る。	・月の行事予定及び週の行事予定の調整においては、事前に学部や分掌部に配付して集約化を図ることで効率化を図る。会議で使用する資料を2日前には配付するようにし、事前に会議内容を確認できるようにする。また、会議時間は1時間以内を目指す。 ・教員の業務をサポートスタッフと分担することで、教員が本来の業務に注力することができるよう部主事と連携してサポートスタッフの有効活用を図る。	⑭⑯⑰	B	・会議を2つ連続して行う場合は、1時間以内に終わらせることは難しかった。会議の日程調整の工夫が課題である。 ・サポートスタッフの有効活用を図り、教職員の業務削減につながったが、定期的な安定した内容や量の業務を用意することが課題である。 ・カリキュラムマネジメント推進委員会を計画的に実施したが、学年、学部での話し合いのスケジュールを見える化したいと考える。
		児童生徒一人一人の自立と社会参加を図るため、教育課程の改善を図る。	・次年度の教育課程編成に関してカリキュラムマネジメント推進委員会を実施し、現状の課題を洗い出し見直し・改善を行う。	⑦	B	
	公簿係	学期ごとにマニュアルの見直しを行い、諸帳簿の適切な運用と管理を適正に行う。	・指導要録、出席簿、会計簿、修了証(出席等の状況)の記入についてのマニュアルを作成し、必要に応じて説明の場を設け、記入の仕方 や管理等の周知を図る。	⑦	A	・各帳簿のマニュアルを作成し、マニュアルに従っての作成、提出を伝達し、管理することができた。作成途中であがってきた疑問点、改善点等をすぐに全職員と共有していくとともに、次年度のマニュアルに生かしていきたい。
		1学期中に管理表を作成し、各教室の備品、清掃用具の管理を適正に行う。	・備品管理表と清掃用具管理表を作成し、学期ごとに各教室の備品、清掃用具の配置数の確認、補充を行う。	⑦	B	・備品、清掃用具の管理表を作成し、物品のチェック、不足品の補充を定期的に行った。在庫数が足りずにすぐに補充できない場合があったので、余裕をもって物品を用意していくことが課題である。
	図書教科係	教科用図書の授業での活用を図る。	・年間2回教科用図書の活用状況のアンケートを取り、アンケート結果をもとに活用事例を報告し、授業での活用を促す。	⑥	B	・各学部とも教科用図書を多く活用してもらうために、授業での活用事例を示し、活用を促す声かけを定期的に行っていく必要があると考える。
		児童生徒、職員の望ましい図書館利用を推進するとともに、環境の整備を図る。	・図書館資料を台帳に記載し、4月から校内LANにて公開する。 ・学期に1度程度、図書委員会(小・中・高)と連携し、お薦め図書の紹介等を行う。	⑥	B	・図書だよりを利用した広報活動に加え、図書委員会と連携した読書推進活動を行うことができた。他の図書館の感染症対策を参考にしながら、図書館を利用する上での注意点を知らせることができた。
	共同学習交流及び習係	居住地校交流の希望を把握し、円滑な推進を図る。	・各担任が交流校との連絡調整を円滑に進めやすくなるよう、居住地校交流の実施マニュアルを見直す。	⑰	B	・居住地校交流・地域交流はコロナ感染症対策のため中止とし、文書や電話で連絡をした。学校間交流は、手紙など間接的な方法に変更した。今年度の実践例を共有し、早めに交流校に提案していくことで、円滑な実施に繋がるのではないかと考える。
		学校間交流・地域交流の理解啓発と推進を図る。	・保護者や各関係機関との連絡調整を行いながら、感染症への対策方法を検討し、安全に、安心して参加できるよう、計画の立案や内容変更をしていく。	⑰⑱	B	
	若手研修教員等	初任者、2年次、3年次、中堅(前期・後期)研修者に対して、各研修の特性に応じた校内研修を実施し、教員としての資質及び指導力の向上を図る。	・全職員の協力を得ながら、校内・校外の研修計画に基づき、効率的に研修が行えるよう連絡調整する。 ・指導案や課題レポート作成に向けて、研修者や担当指導教諭へ進捗状況確認、相談を口頭及びメモを活用して適切に進める。	⑤⑥	A	・指導案の作成では新しい形式に沿った計画や作成は研修等を通じて進めることができたが、展開の部分など流れがよく見える、適切な配慮事項など、曖昧なところがあった。展開のポイントを整理し、形式と合わせて内容の充実を更に図りたい。
			・初任者研修、2年次研修、3年次研修、中堅教諭研修において必要な「ユニバーサル10」の意識チェックシートや授業の基礎基本ブックのチェックを活用し、基礎的なスキルアップと意識作りを図る。	②	B	・具体的な用具とタブレットを中心としたICT活用のバランスは必要であると感じる。ICT関係の研修も多くしながら、実際に触れる研修の機会も維持していきたい。
			・実態把握の器具や用具を扱う研修、実物の教材に触れる研修や、授業ビデオを活用した研修などを通して、授業作りのイメージを育てる研修を行う。	①④	A	
	現職教育係	校内研修を精選し、他の校務分掌と連携するなど計画的に実施して教職員のスキル向上を図る。	・初めて特別支援教育に携わる職員に対して児童生徒とのかかわり方などについての研修会を若手教員研修と連携して2回行う。 ・サポートセンターと連携し、可能な時期にケース会議の研修会を2回行う。(1回目は支援方法の検討、2回目は支援をした結果の検討)	⑤	A	・初めて特別支援教育に携わる職員に対しての研修会を2回、ケース会議を2回実施できた。どちらも感染症対策として小人数で実施したため、参加していない先生方へも研修内容などを伝達できるようにしていきたい。
人権に関する校内研修会を企画・実施し、職員の人権意識の向上を図る。また、児童生徒に対して人権ポスターや人権メッセージを募集し、校内の人権に関する意識を高める。		・可能な時期に1回、人権に関する研修会を企画し、実施する。 ・児童生徒に人権についての理解を促し、人権ポスター、人権メッセージを募集して出展する。	⑤	B	・人権研修はリモート形式で11月に1回実施できた。人権ポスターやメッセージは今年度出展できなかったため、各学年で取り組んでもらえるよう声をかけていきたい。	
特教研における連絡調整を行うとともに、次年度の特教研事務局担当に向けて準備を進める。		・特教研に関する連絡調整を行う。 ・事務局からの要請があった際には会議等に参加する。 ・次年度に向けて今年度の事務局担当校からしっかりと引き継ぎを受ける。	⑩	B	・特教研は今年度中止となったが、次年度へ向けての引き継ぎなどを行った。	

情報教育部	情報管理関係	校内ネットワーク、情報機器の適切な管理・整備を行うことで、校務の効率化と安全性の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・係内の人員をそれぞれ「機器」「HP」「データ管理」に振り分け、それぞれに担当者を設け、周知する。 ・管理を分散化することで、必要な時に素早くトラブルに対処できるようにする。 ・引き続きマニュアルの作成を行い、担当者が不在でも対応ができるようにする。 	⑬⑭	B	<p>人員の振り分けを行ったことで、仕事が分散できるようになった。マニュアルについても作成を、情報教育部以外の職員でも対応ができるようになった。新しいトラブル、業務が増えたことで対応できる人員に偏ってしまった。情報伝達の時間がないのでその機会をなるべく作り、係内でのスキルアップを目指したい。</p>
	ICT活用推進	タブレット端末を利用した授業の好事例を職員に紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部に対して、タブレットの使い方について研修を行い活用を促す。 ・タブレットを利用した授業の動画を撮影する。 ・職員会議等の機会を利用して好事例を紹介する。 	③⑤	A	ICTエキスパート研修を通して、全学部でipadを活用した授業を実施した。ipadを活用した授業の動画を研修として配信した。
生徒指導部	生活指導関係	いじめの早期発見早期対応をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケートの回収方法を、学年主任→学部主事→生徒指導主事という流れで行い、情報の共有を図りやすくする。 	⑪	A	<ul style="list-style-type: none"> ・回収方法を改善することで、特記事項への対応漏れがなくなり、聞き取りや対応が迅速に行えた。
		身だしなみの整える力、意識の定着、向上を図り、清潔にすることで感染症の予防に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・見だしなみ整容について、服装や季節に応じた資料を教室や廊下に掲示する。 	⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体操服、制服の正しい着方と良くない着方の写真を並べたポスターを作成した。幅広い実態の児童生徒にもわかりやすく身だしなみについて意識付けることはできたが、それを感染症予防に繋げることは難しかった。
	通学指導関係	スクールバスに係る連携を密に行うことで、安心・安全かつ円滑な運行を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・係内や乗務員、担任などの関係職員と普段から連携を密にとり、諸問題が起きた際の早期対応や車内の換気・消毒による感染症予防に努める。また、関係職員への連絡事項を事前に書面で伝えておくことで、会議等の短縮化・効率化を図る。 	⑪⑫	B	<ul style="list-style-type: none"> ・号車担当と乗務員、必要に応じて担任や関係職員との情報の共有を行い、諸問題の早期解決に向けて取り組んだが、連絡体制の共通理解が不十分で対応が遅れてしまうことがあったため、今以上に連携を密にとり、連絡・報告漏れがないように努めていく。消毒や換気については、全号車適切に実施でき、感染症予防に努めることができたが、バス内での児童生徒の支援については、研修の成果が出ているとは言いがたいため、今後も会社と連携しながら進めていく必要があると考える。
		SB自力・自力通学生に向けた定期的な安全指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、自転車安全点検表をとおして安全指導及び家庭での自転車点検を促したり、自力通学生を中心に年間2～3回安全指導を実施したりする。また、SB自力・自力通学生の経路や時刻等をまとめた通学地図を作成することで、普段の指導や緊急時の対応の際に活用する。 	⑫	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車のトラブルが多かったため、今後は自転車点検に加え、定期的な安全指導の際に、生徒に向けて自転車点検の仕方についても画像や動画などを使用して指導するとともに家庭での自転車点検を再度徹底していく。経路や時刻については、大型地図を作成し、ハザードマップでの緊急時・災害時の把握を行うことができたが、経路や時刻等については、毎年変わることが予想されるため、今後必要に応じて更新していく必要がある。
特別活動関係	情報の共有を図りながら、児童生徒会が主体的に活動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・報告や決定事項については書面で回覧し、業務の効率化を図る。また、児童生徒会役員の活動日を月に1度設定し、児童生徒集会や運動会の企画・運営について決定できる場を設ける。 	⑧⑫	A	<ul style="list-style-type: none"> ・係会で検討する事項について事前に書面で回覧することで、円滑な協議を行うことができた。 	
	児童生徒集会では、少人数体制での参加・活動ができるように実施形態を工夫し、感染症対策に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、各教室にて動画やパワーポイントを視聴することで安全な環境で児童生徒集会が実施できるようにする。 	③⑪	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒集会では、リモートで行うことで密を避け、感染症対策に務めることができた。 ・今年度はマナーアップ運動が中止になってしまったため、次年度に向けて活動の機会を確保していく必要がある。 	

保健 安全部	保健指導係	感染症予防についての基本的な対策を明確に示し徹底化を図る。	・手洗いや咳エチケット、換気等の感染症予防対策を具体的に職員や保護者に通知し、共通理解を図って確実に取り組めるようにする。	⑪	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な予防対策は来年度も継続していく必要があると思うが、状況等に応じて定期的に見直すことも必要である。また、その際は感染症対策委員会(仮)を開催し、職員の共通理解がより図れるようにしていきたい。 ・手洗いや換気については、確実に取り組めていたが、マスクの着用が難しい児童生徒の指導は難しかった。着用できるようにするための手立てを多くの職員から集約し、共有できるようにしていきたい。 ・体調管理について、保護者に対する理解と協力依頼を引き続き行っていく必要がある。 ・各部で安全な環境作りに取り組むことができたが、今年度は感染症の影響があり、チェック項目の確認やヒヤリハットの事例を集約することが難しかった。来年度は学期に1回以上はチェック項目の確認や事例の集約をできるようにしていきたい。 ・「ヒヤリハット」とは何かをもっと確認し合い、報告しやすしい状況作りをしていく。 ・感染症予防対策、働き方改革の観点から、例年8月に行っていた第1回目の学校保健委員会は、校医と本部役員に資料を送付(配付)し、文書やメール機能を使って情報を共有していく方向で考えていきたい。
		教室環境、児童生徒への対応等やヒヤリハット事例についての情報を共有し、けがや事故の未然防止や再発防止に努める。	・チェック項目の確認やヒヤリハットの事例報告書への記録を定期的に声かけし、児童生徒の実態に応じた安全な環境づくりや対応が行えるようにする。	⑪	B	
	医療的ケア	医療的ケア対象児童生徒が安全に学校生活を送れるように支援する。	・医療的ケアを必要とする児童生徒が安心・安全に校内外の活動に取り組めるように、巡回指導医、看護職員と連携し、支援方法や活動への参加の仕方について検討する。	⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、感染症対策として校外での活動は実施せず、校内での活動も教室内での活動にしぼり、接触する人数も制限した。次年度以降もガイドラインに沿いながら、巡回指導医等の意見を伺い校内外の活動への参加や支援方法についてその都度検討していく。 ・災害時のシミュレーションとして、体育館及び、グラウンド避難時の避難スペース設置を行った。改めて必要になった物品は次年度初めに購入し、災害時に備える。
			・災害時用の物品やファイルを確認し、災害時対応マニュアルを使ってシミュレーションを行う。	⑬	A	
	食育係	新型コロナウイルス感染症対策や情報意見の集約をして、食育キャンペーン(年2回)食育だより(年5回)において計画的に児童生徒や職員及び保護者に食の安全を周知していき、食育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・台ふきや洗い桶の準備依頼やハイター消毒等の給食前後の対応について、安全な給食体制を整理して知らせ周知徹底を図る。 ・食育キャンペーンでは児童生徒の食への興味関心を高めたり手洗いの重要性を周知したりし、食育だよりでは食の安全に対する本校での取り組みを職員や保護者に周知したりしながら、食育を充実したものとする。 	⑪⑮	A	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房での調理の様子動画を制作して提供できた。今後も食の安全の周知に取り組んでいきたい。 ・残食(特にご飯)が多いので、食育において残さないよう摂食するよう促したり、定期的に残食調査を実施し提供量についても確認検討していきたい。
		アレルギー対応給食児童生徒に必要な手続き(各書類作成や対応)が円滑に進められるように、対応の流れについて分かりやすく周知する。	・書類をまとめて回覧保管できるようにクリアファイル等を活用したり、対応の流れの文書を分かりやすく提示したりして、年度初めの引き継ぎが円滑に進むように整理する。	⑬⑮	A	
	安全防災係	各種災害に備えた校内体制の確立を目指すとともに、関係機関と円滑な連携を図る。	・福祉避難所開設におけるマニュアルに沿って職員の役割を確認し、大規模災害時の校内体制を確立する。	⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所開設マニュアルを作成し、全職員で開設の流れや校務分掌ごとの役割分担について共通理解をもった。今後、開設に向けた訓練等を行っていく必要がある。 ・感染症対策のため、直接的な情報交換の場を設けることができなかったが、学区内5市の防災担当課に避難所の障害者の対応状況についてアンケート調査を行った。今後アンケート調査を基に各市の担当者との連携を深めていきたい。
			・関係機関と情報交換の場を設け、災害時の連携体制の向上を図る。	⑬⑭	B	

進路指導部	同窓会支援	同窓会活動の活性化を図り、同窓生とその保護者から信頼され開かれた学校づくりを目指す。	・同窓会役員との連携を密にするとともに、役員会において前回の反省や課題点を互いに出し合い、次年度への同窓会に生かしていけるよう役員会を支援する。	⑬	A	・年間2回の役員会を実施し(R2年、2月末実施)同窓会名簿の整理と送付ハガキの様式や送付基準の改正を行うことができた。来年度も名簿の現状確認とハガキ準備に手違いが内容十分注意する。
		今後の卒業生の受け入れをスムーズにする関係づくりの一助として、福祉施設からの注文案内を円滑に行うことで、児童生徒が就労に向け、生き生きと楽しく学ぶ学校を目指す。	・施設関連販売の広報や周知を行い期日等の調整することで、販売をスムーズにできるようにする。	⑧	B	・定期的な販売ではなく、いな徳祭等の行事のに絞ることで販売がスムーズに行えるよう検討したい。
進路支援係		児童生徒の生活年齢に応じて、保護者が必要とする具体的な進路情報を提供できるようにする。	・市町村福祉課や各事業所から情報収集を行い、福祉サービス施設の利用内容が掲載された冊子を制作し、保護者に配付をする。 ・高等部保護者向け進路説明会や個別面談で「進路の手引き」を使用し、内容の周知を図る。	⑧	A	・「福祉サービス事業所ガイドブック」を作成し、保護者に配付することができたが、「進路の手引き」については、個別面談等での活用を積極的に促すことが不十分であった。具体的に活用するタイミングを職員に提示し、面談では常に携行し保護者に情報提供が行える体制を整えたい。
		関係機関と連携し、学区および近隣の雇用状況や景気の変動を把握して、在校生および卒業生の安定した就労と雇用条件向上に努める。	・ハローワークと近隣学校との連絡協議会を発足させ、職場開拓状況や実習受け入れについてハローワークとの協力体制を整える。 ・就業・生活支援センター職員とともに職場訪問を行ったり、福祉事業所や相談支援員との情報交換を行ったりすることで、安定した生活ができるように支援する。	⑧	B	・ハローワークとの連絡協議会は感染症流行のため実施できなかった。来年は実現していきたい。職場訪問は感染症予防の観点からの制約があったが、可能な限り実施し、就労支援コーディネーターが軸となり卒業生全員の定着支援を行ってきた。
学習指導部	研究推進係	各教科等の指導と自立活動が関連した授業実践研究を行い、学校全体の授業力の向上を図る。	・流れ図の作成により、実態把握から自立活動で指導すべき内容までを明確にできるように、各学年、コースで対象児童1～2名を選び、研修を行う。合わせて、自立活動の視点を踏まえた各教科等の授業実践を行い、RPDCAサイクルに基づいた授業の一層の充実を図る。 ・自立活動やアセスメントについての校内研修会を行う。また、外部講師を招き、授業に対する指導・助言を受け、授業力の向上に努める。	②④⑥	B	・コロナウイルス対策で学年単位の小グループでの研究が主になった学校研究だが、計画に沿って進めることができた。話し合い等の進捗を促進する資料の作成やオンラインの活用が今後必要と考える。
		個別の指導計画等の作成・配付や年間指導計画の作成について、全職員が円滑に行うことができるように、定期的な周知を行う。	・作成・配付スケジュールや作成内容について、職員会議や学部朝会などで、随時連絡を行う。また、作成例等も示し、スムーズに作成できるようにする。	⑥⑩		・外部講師を招へいできず、係内で協力し、自立活動やS-M社会生活能力検査などのオンライン全体研修を行ったが、大学の先生等から指導・助言の必要性も改めて感じたため、外部講師からの助言方法等を今後検討する。 ・作成マニュアルを作成し、全職員に配付したことで、周知がスムーズになった。よりよくするために、マニュアルの見直しは毎年行う必要がある。
	自立活動係	外部専門家(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)との自立活動連携相談では、様々な児童生徒への支援方法を増やし事例を蓄積することで、係の専門性向上を図る。	・外部専門家を招いて、発達障害のある児童生徒への対応を再確認できる講演会(全体研修会)を実施する。	⑤⑩	B	・今年度はコロナ禍ということもあり、全体研修は行わなかったが、外部専門家の来校日の放課後の時間を使用して自立活動系の研修を行った。その際に得られた内容等を担任にフィードバックしたり、職員会議の場を使って共有したりした。今後は担任アンケートを実施することで、得たい情報を把握し、講師の厳選と研修内容の精選に努めたい。
	毎月の職員会議にて、自立活動における情報共有の場を設けることで、教職員の専門的な知識能力の向上を目指す。	・自立活動の教材を紹介したり、自立活動連携相談の中で多くの職員が活用できる情報を共有したりする。	⑤⑩	A	・外部専門家連携相談を開始した翌月から、毎月の職員会議の時間を使って「外部専門家を活用した事例の紹介」を行った。PT、OT、STの領域を偏りなく伝えられるように工夫した。今後は発表した内容をより詳しく確認したい担任などが見やすくなるよう、データの保管場所を周知していきたい。	
文化推進係	スポーツや文化に親しむ態度を育て、卒業後の余暇につながるような活動の企画運営や地域への社会奉仕活動を実施する。	・各スポーツ大会やスポーツ教室の開催、作品展や展覧会等を周知し、文化活動及びスポーツ活動への参加機会を促す。また、部活動による大会参加の結果報告や作品等の写真、活動の様子等を、ホームページにてUPし、保護者や地域へ積極的に情報を発信していく。 ・部活動の生徒においては卒業生チームとの交流試合やレーザークラフトのワークショップ等を設定し、卒業後の活動を知る機会を設けたり、スポーツマンシップに則り学校近隣のごみ拾い活動を実施することで地域への社会貢献を図ったりする。	⑬	B	・今年度は新型コロナウイルスの影響により、各種大会等が中止になってしまった。また外部との交流についても実施が難しい状況であった。普段の活動風景や様子を学期3～4回程度のペースでホームページにアップすることができた。今後は、リモートによる企画も検討していきたい。	

渉外		<ul style="list-style-type: none"> ・本部役員がPTA活動についての運営の内容検討を効率よく実施できるよう、SNSなどを含めた情報手段を活用して情報の共有化を図る。 ・4市連絡協議会、福祉事業所合同説明会にかかわる活動として、福祉事業所一覧を作成し、福祉作業所の情報を効率よく得られるようにする。 	②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4市連絡協議会については質問を各機関に送り、書面にて回答を得た。いただいた各市の回答を本部だよりを通して各家庭に配付し、情報を共有したが、保護者への情報提供が2学期後半になってしまったので、次年度は、早めに動いて早めに情報を届けられるようにしたい。 ・次年度もコロナ禍での活動が予想されるので、行事等については早めに判断し、役員、委員をはじめ、保護者が見通しをもって活動できるようにしていきたい。
	(巡回教育相談) 支援の効果を測れるようにし、実践的な研修を通して、依頼元の学校等の特別支援教育力の向上に寄与できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談の実地研修として、初回と必要時には2名体制で出向けるよう調整をする。 ・出向きの巡回相談では依頼元の学校等から2回以上の要請をいただくことにより、変更や支援の効果を測れるようにする。 	⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談に2名で出向けるよう調整し、各校からの要請に応じてケースへの対応について検討できた。校内体制の工夫やUD授業等についても伝えることができた。今後も丁寧な支援を継続し、校内研修の提案も行うようにしたい。 ・巡回相談2回目のニーズは電話にて確認し、12月現在で約7割の学校で実施の方向である。今後は、初回相談の時に次回の予定を決めるようにしたい。 ・他機関との連携や児童生徒の行動観察とケース会議等を実施して校内の児童生徒への支援に寄与することができた。今後も校内支援の活用について継続的に呼びかけたい。 ・各学部や分掌係にブログやホームページの更新を依頼し、情報教育部の協力を得て情報発信することができた。 ・学校公開をホームページ上で実施し、児童生徒、保護者、教職員向けの情報発信に努めた。今後も有益な情報を継続して発信していきたい。
	(校内支援) 支援の必要のあるケースを把握し、ニーズに応じて対外機関との連絡・調整を図るなどして、児童生徒へのスムーズな支援の提供と担任の負担軽減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・部主事・学年と連絡を密にし、支援が必要なケースについての情報を把握できるようにする。 ・市福祉課等に連携を依頼したり、放課後等デイサービスや相談支援員とのケース会議の連絡・調整等をしたりする。 ・担任・学年のニーズに応じて、児童生徒の行動観察をしたり、担任が心理検査を実施・解釈するのを支援したりして、より適切な実態把握と支援方法の検討ができるようにする。 	①⑤⑬	A	
(地域への情報発信) ホームページを活用して、センターの機能の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに掲載する内容を検討し、本校児童生徒の保護者・地域の学校・地域住民の方々が、本校の教育活動についてより理解を深めたり、特別支援教育に関して役立つ情報を得られるようにする。 ・本校教育活動についての内容として、校務分掌や各学部の担当者に企画委員会の折に情報の更新を依頼する。 	⑭	A		
事務部	庶務	適正な文書管理に努め、能率的な事務処理を図る。		B	<ul style="list-style-type: none"> ・行政メールできていたが、印刷受付が終わっていないものがあつた。既読となつているものでも担当と事務長で確認するようになった。 ・FAXの確認が遅れたことがあつたため事務室全員でFAX受信に気をつける。 ・担当が休みの時の対応を明確にしておく。
	会計	会計の適正、効率的執行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会に参加し財務会計知識の習得に努める。 ・法令等に基づいた、適正な執行を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会が本年度中止となり、財務会計初任者研修のみの参加となった。在宅勤務中に配付された資料により各自研修を行なった。次年度も研修会中止の場合は、同様に対応する。 ・コンプライアンス研修として情報セキュリティ関係、飲酒運転関係等研修を行なった。次年度も定期的の実施したい。 ・予算執行については、前期で備品購入費の執行等担当と確認しながら早期執行ができた。次年度も計画的に早期執行に努める。
	施設管理	施設設備の良好な維持管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の安全確保に努め、迅速な対応を心がける。 ・中期・長期的な展望をふまえた、計画的な整備をすすめる。 	⑪	B
給食	安全・安心な給食の提供に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員の衛生管理の意識向上のため、研修を行う。 ・食物アレルギーのある児童生徒が安全に給食を喫食することができるよう食材の確認を徹底する。 	⑪	B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な手洗いの実施のため、検査機器を活用し、手指の細菌数を計測し意識の向上を図った。継続して、適切な手洗いの実施について、次年度も確認していく必要がある。 ・アレルギーが料理に入っていることを示す札を置くことが漏れていた日があつたので、チェック体制を整えたい。

◆ 学部・学年 A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
小学部	興味・関心を広げ、進んで取り組むことができるよう、発達段階に応じた指導の充実に努める。	・興味・関心を生かした自主的、主体的な学習が促されるよう、実態把握に基づく教材の作成やICT機器の効果的な活用を目指し、個に応じた学習内容や方法を工夫していく。	③⑨	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した指導を充実させるために、ICT機器活用の実践例を共有し、個に応じた効果的な活用について検討していく。 ・自己肯定感を高めることで、より主体的な活動につなげられるよう、的確な実態把握に基づく課題設定と評価を継続して行っていく。 ・チェックリストについては、活用の仕方について検討し、共通理解を図っていく。感染症予防に配慮しながら、ICT機器を活用した学年間や他学年との交流を図り、コミュニケーションの学習形態を工夫していく。 ・継続して会議内容の精選や時間配分を意識した進捗に努めていく。教材のデータの集約や共有化についても、周知を図りながら活用を促していく。
	できたことに喜びをもつことができるよう、自分の課題を最後までやり遂げようとする意欲を育てる。	・自立活動の視点を生かした児童の課題を明確にしながら、達成可能な目標設定に努め、成功体験や感謝される体験を重ねることで、自己肯定感を高められるようにする。	④⑥	B	
	身近な人と仲良く遊んだりかかわろうとしたりできるよう、コミュニケーションの基礎的な力の育成を図る。	・学部共通のチェックリストによるコミュニケーション能力に関する実態把握を行い、学習のねらいや内容を明確にした指導計画の改善を図る。	①⑧	B	
	会議の効率化や教材教具等のデータベース化を進め、業務の改善を図りながら指導の充実に努める。	・会議の内容を報告と協議事項に分別し、あらかじめ時間配分を行い、時間厳守で進行したり、作成した教材の電子データを共有フォルダに保存し、共有化を促進したりしていく。	②③	B	
小学部第1学年	発達段階に応じた学習を継続的にを行い、日常生活に必要な「知識・技能」の基礎を育てる。	・日々の学習の様子を丁寧に観察するとともに、チェックリストを活用して実態把握をするとともに、個に応じた教材教具を工夫し、夏季休業中に作成する。	①⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・S-M社会生活能力検査、太田ステージなどによるアセスメントを引き続き行い、発達段階に応じた教材教具を工夫し、指導していく。 ・写真やイラストに加えて、文字と併せてなどの視覚的な支援を効果的に活用していく。 ・学年で一斉に授業を行うことは難しい状況なのでICT機器を効果的に利用し、学習や学びの中できかわりが深められるようにしていく。 ・消毒、清掃後に会議があるので、効率よく進められるようにさらに工夫していく。
	成功体験を積み重ね、「やってみよう」という気持ちを引き出しながら、身のまわりのことを最後まで行おうとする意欲を育てる。	・少しの支援でできるような課題設定を行い、称賛したり、出来たことを可視化して示したりして、達成感のもてる授業づくりをする。	④⑧	B	
	教師や友だちと学習や遊びをとおしてかかわり合いながら、人のかかわりの基礎を育む。	・授業づくりについて学年会で話し合い、感覚遊びや体験的な学習を設定し、お互いの活動の様子に注目できるように、ICT機器を効果的に利用していく。	③⑨	A	
	学年会での効果的な運営を図り、児童の実態の共通理解、教材研究に努める。	・会議の協議事項は内容を事前に報告して効率的に進められるようにし、報告事項は項目ごとに要点をまとめて周知できるようにする。	②	A	
小学部第2学年	発達段階に応じた学習を継続的にを行い、日常生活に必要な知識・技能を育てる。	・チェックリストを活用したり、日常生活や学習場面での観察を丁寧に行ったりして実態把握に努め、個に応じた教材教具を工夫して指導する。	①⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き発達段階に応じた学習を行うために、評価の記録を積み重ね、児童の変容や評価についても定期的に話し合いを設けながら、教材教具を共有して個に応じた指導を行う。 ・さらに成功体験を自発的な行動につなげるために、写真やイラストに加えタブレットなどのICT機器を活用しながら学習の振り返りを行い、自己評価だけでなく教師からの評価を伝える場面を設ける。 ・学級だけでなく様々な小集団を形成し、その中で人に伝えたいという気持ちを高められるような学習場面を設定したり、写真やイラスト、タブレットなども活用しながら選択肢を増やして人とかかわる力を育む。
	成功体験を積み重ねることで、「やってみよう」という気持ちを引き出し、自分のことは自分で行おうとする意欲を育てる。	・学習目標の提示や学習の振り返りにおいて、ICT機器等を活用しながら写真やイラストなどを取り入れ、視覚的に分かりやすく提示し、「できた」「ほめてもらってうれしい」という経験を増やす。	③④⑥	A	
	学習や遊びをとおして自分から要求や意思を伝えたいという気持ちを高め、人のかかわりの基礎を育む。	・話し言葉や文字と併せて写真やイラストなどを活用しながら自己選択の機会を増やしたり、要求を引き出すような言葉かけの支援をしたりする。	③⑧	A	
	学習の評価の記録や教材の共有化を図り指導に活かす。	・グループで行う学習の様子や評価について授業案に記入したり、作成した教材の電子データを教科ごとに保存したりして共有化を図る。	②③	B	
小学部第3学年	発達段階に応じた学習を継続的にを行い、日常生活に必要な知識・技能の習得を図る。	・実態把握を基に指導者間や保護者と共通理解を図り、視覚教材やICT機器を活用し、計画的に指導にあたる。	③⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Meet等、より効果的なICTの活用ができるよう、練習や研修が必要である。 ・学年全体の合同授業ができないため、他のクラス、グループの児童の実態が分かりづらい。学年全体で児童をみることができ体制づくりを心掛けていく必要がある。 ・学年会等で児童の実態等について報告する時間を設けたり、ケース会等で話し合ったりしてきた。さらに多くの目で児童をみたり、指導したりすることができるよう、感染症に気を付けながら、クラス間の交流等を行い、客観的に児童の指導にあたるようにしていく必要がある。 ・チェックリストについては、グループを作るときに活用したが、それ以降あまり使われていないので、学期に一度など、見返すようにしていきたい。
	自分の課題や役割を知り、見通しや興味・関心をもって学習に取り組む意欲を育てる。	・個々の実態や特性に応じたグループ編成を行い、学年会において指導内容や成果について報告し、情報の共有化及び指導の充実に努める。	④⑥	B	
	人とかかわる楽しさを味わい、集団を意識する気持ちや自分の意思を伝える力を育む。	・チェックリストによる実態把握を基に課題設定を行い、指導者間や保護者と共通理解を図り、障害の特性に応じて教材教具を工夫し、計画的に指導にあたる。	①⑧	B	
	情報や教材教具の共有をし、客観性を伴う実態把握や業務の効率化を図る。	・連絡、相談を密に行い、学年内の情報の共有、共有フォルダ等を活用した教材教具の共有を行い、客観性を伴う指導や業務の効率化を図る。	②③	B	

小学部第4学年	発達段階に応じた継続的な指導を行い、日常生活の中で活かせる力を育てる。	・障害の状態や特性等に応じたICT機器の効果的な活用をし、自立活動の充実を図り、各教科等の指導の充実に繋げる。	③④	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体でmeetを使った授業をしたり、各クラスでipadを使ったり、動画を見たりしながら学習を進めることができたが、遠い画面に目を向けることが難しい児童への支援方法については、今後工夫をしていく必要がある。 ・S-M検査をすることで、今の実態がどの程度なのか、得意不得意は何なのかを明確にすることはできたが、検査結果の活用方法に課題が残った。今後検査結果を生かした指導方法を検討していく。 ・学年会は検討事項が多く、時間がかかる日が多かった。消毒の時間の効率化を図る必要がある。
	学級内での役割や自分の課題を最後までやり遂げようとする意欲を育て、自己肯定感を高めることができるようにする。	・流れ図活用やアセスメントを行い、一人一人にあった教材を用意し、「やってみよう」と思えるようにし、主体的な行動を促す。	④⑥	B	
	個に応じたコミュニケーション手段を身につけ、自らかかわろうとする態度を育む。	・チェックリストによるコミュニケーション能力に関する実態把握を行い、個に応じたコミュニケーション手段を身につけることができるようにする。	①⑧	A	
	会議の効率化のため、協議事項を事前に回覧し業務の改善を図り、教材作りの時間をとるように努める。	・会議前に協議事項を回覧し、事前に考えをまとめておくことで、会議時間の短縮を図る。	⑫	A	
小学部第5学年	体験的な学習や、ICT機器等を活用し、できた喜びを感じる経験を重ねるとともに興味・関心を広げ、自分から学習しようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭、栄養教諭と協力した授業を年1回、校外での体験的な学習を年2回実施し、学習内容の充実を図る。 ・毎月1回以上、ICT機器を活用した授業を行う。国語や算数、生活単元学習や自立活動などの学習で、振り返りやまとめを行うことで、できたことが視覚的に分かるよう活用する。 	①②③	C	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍により、校外学習、宿泊学習などの校外での体験学習ができなかったため、校内で体験的な学習を代替で行ってきたが、来年度も今年度と同じ状況が続くようであれば、さらに充実した体験学習を計画する必要がある。 ・今年度は3密を避けるために、テレビ会議形式で行った授業もあったが、学年間の交流がほとんどなかったため、来年度は学部集会だけでなく、その他の活動で他学年とテレビ会議形式で交流できるとよい。 ・コミュニケーション能力をさらに高められるような、授業場面や教材を職員間で話し合い、来年度の年間計画に反映させる。
	学年・学級、小学部5年生としての役割を理解して、自ら行おうとする意識を高める。	・学級内の係や委員会での活動内容を分かりやすく提示するとともに、特別活動での委員会等で役割を意識しながら活動し、自ら行おうとする気持ちを育む。	④⑧	B	
	人とかかわる楽しさや、人と協力する大切さを感じる経験を重ね、コミュニケーション能力を高める。	・実態に応じて、言葉や身振り、サイン、絵カードなどで相手に自分の気持ちを伝えられるようにしたり、場に応じた行動や言葉遣いについて経験の場を設けたりして、コミュニケーション能力を高める。	⑧⑨	B	
	学年、学部の教員間で、校務や児童の様子などについて共通理解を図り、学校行事や児童への指導を円滑にする。	・普段から連絡、相談を密に行い、学年、学部内の情報の共有、共有フォルダー等を活用した教材教具の共有を行い、系統性を踏まえた指導や業務の効率化を図る。	⑫⑬	B	
小学部第6学年	体験的な活動を通して興味・関心の幅を広げ、自分から取り組もうとする力を育てる。	・植物の栽培や公共施設の利用など、様々な活動を設定したり、ICT機器を自分で操作したりすることで理解を深め、興味関心が高まるようにする。	③⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadの様々なアプリやMeet機能等を、より効果的に授業に活用できるよう、職員の研修が必要である。 ・他学年の児童と積極的にかかわりがもてない中でも、小学部最高学年としての役割を意識し、他学年の手本となるような活動を工夫していく必要がある。 ・体の成長やこころの変化に伴う、正しい男女の関わり方についての学習は、日常生活場面だけでなく学習場面でも計画的、継続的に取り組む必要がある。
	一人一人の発達段階に応じた学習と活動を通して、「できた」「分かった」などの成功体験を積み重ね、主体的に取り組む態度を育む。	・個に応じた教材教具の活用や、板書や発問の工夫を行い、できた喜びを感じる経験を重ねるとともに、学年・学級内での役割や、小学部最高学年としての役割を意識して、自ら行おうとする気持ちを育てる。	②④	B	
	友だちや教師とかかわる楽しさを感じながら、コミュニケーション能力を高め、社会性を育てる。	・挨拶や言葉遣い、人との距離感などについての学習を継続的にを行い、適切なコミュニケーション能力を育むことで、人とかかわることの楽しさを感じることができるようにする。	⑨	A	
	学年職員間の諸会議においては、終了時間を明確に設定することで会議の効率化を図り、教材準備や児童の情報共有の充実に努める。	・会議の資料を事前に配布し、時間配分を行う。決定事項や議事録は学年全職員で共有し、共通理解のもと児童の支援にあたるようにする。	⑫	B	
小学部・なのはな教室	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対しての意識を育てる。	・児童の身体全体の動かしやすさ・動かしにくさを共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操の際は、言葉かけをしながら、身体の部位にふれ、ボディイメージがもてるようにする。	①②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、身体介助の際に児童との密接は避けられないため、かかわる職員の健康管理に留意していく。 ・今年度は他の児童の支援に移る際は必ず手指消毒又は手洗いを徹底して行ってきたが、来年度も継続していく。 ・来年度以降も、児童の表情や発声、行動等、自発性を育めるような継続した学習支援を行っていく。
	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の感情や意思を周りに伝えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を使った活動に繰り返し取り組みながら、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 ・豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 ・選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。 	①②③	A	
	児童にとってよりよい環境設定や適切な支援が行えるようにする。	・保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、外部講師(PT/OT/ST)との連携を図る。	⑩⑪	A	
	児童の情報や教材教具の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	・児童の情報の連絡、相談を円滑に行ったり、作成した教材教具の共有を適宜行うことで、効率的且つ業務のスリム化を図る。	⑫	B	

中学部	自分の目当てや見通しを持つことができるよう、各教科等の授業で得た知識を相互に関連付けたり生活の場面で活用したりする力を育成する。	・個々の発達段階や特性等の実態把握に基づいた学習グループの編成や教科指導を行うとともに、各授業の単元構成に教科等横断的な視点を取り入れる。	①⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等横断的な視点を取り入れた授業が一部に限られた。各授業等の担当者間で連携して、年間指導計画や単元構成の立案や運用を行っていききたい。 ・生徒が主体的に判断したり表現したりする機会を一層設ける必要がある。指導の手立てや評価方法等の工夫を継続的にを行い、学習活動に対する生徒の意欲を引き出していききたい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により他学年や他部との交流が例年に比べると大幅に限られた。ICT機器による通信技術の活用や指導形態の工夫を進めていききたい。 ・引き続き会議や研修の内容の精選を行うとともに、効率的な運営による勤務時間の順守を行う必要がある。議題の事前調整や資料の事前共有を行っていききたい。
	できることに自ら取り組もうとするよう、既得の知識や技能を活用しながら学習課題に取り組んだり、自分の役割を主体的に遂行したりする力を育成する。	・実際のかつ具体的な活動に思考・判断・表現の機会を設けながら、日常の生活や将来の職業生活に結び付いた知識や技能を習得できる授業実践を行う。	③⑧	A	
	同学年や他学年と一緒に活動しようとするよう、望ましい人間関係や協力して活動できる力を育成する。	・適切な自己肯定感や対人関係構築に必要な学習を行うとともに、異学年の生徒が交流できる指導形態の工夫を行う。	④⑥	B	
	学部会等の諸会議や研修を、毎回勤務時間内に終了する。	・会議においては事前に協議事項の整理と資料の事前配付を行う。研修においては計画段階で内容や時間配分の検討を行う。両者とも開始時に終了時刻を明確に示す。	⑳	A	
中学部第1学年	自分の目標や学習内容に見通しをもつことで、主体的に学校生活を送ることができるようにするとともに、日々の生活に生かせる基礎的な学力の定着を図る。	・個別の指導計画をもとに、生徒の実態を見ながら適切な支援を進め、個々の目標が達成できるよう1回以上、クラスや学年間で共通理解する場面を設定する。	①⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から入学した生徒なども生活や学習への見通しをもち、自分からやろうとする気持ちを育てることができた。学習でも、コロナ禍で授業の変更等があったものの個別の支援計画を基に学習を進め、基礎的な学力の定着を図ることができた。 ・生徒が係の仕事や生徒会など自分の役割を意識できるように、生徒自身が確認できる掲示物を用意したり、意欲を高められるように称賛したりすることで、責任感や自信をもって取り組むことができるようになってきた。 ・挨拶や身だしなみでは、日々の積み重ねにより、少しずつ生徒自身が意識して取り組むことができてきた。関わりのある教員や友だちには、自分から挨拶ができる生徒が増えてきた。 ・学年会では、協議内容を整理することにより、時間内に終わりにすることができた。業務の分担に関しては、滞ることはなかったものの分担が偏ってしまったことがあったので調整が必要である。
	学校生活の中でできることを増やし、自分の役割や仕事に自ら取り組もうとする意欲を高めながら、基本的生活習慣の確立を図ったり働くことへの関心を高めたりする。	・クラス内での係活動や仕事を主体的に行えるよう、内容を具体的に提示したり、できたときには称賛したりして意欲を高めるとともに、職業にかかわる見学や体験の場を設け、働くことや社会生活について関心をもてるようにする。	⑧⑨	A	
	挨拶や返事の仕方、適切な言葉遣いを覚え、それらを生かしながら友だちや教師、他学年の生徒などのいろいろな人とのかわり合いの中でコミュニケーション能力の基礎を育む。	・様々な場面での人との正しいかわり方を示し、その状況と一緒に振り返ることで、適切な方法で相手に自分の意思や気持ちを伝えたり、相手のことを考えて行動したりできるようにする。また、個に応じた表現方法(言葉、身振り、サイン、補助具の利用など)を取り入れ、生活の中で活用していく。	⑧	A	
	学年会を時間内に終わるようにするとともに、学年やクラスでの業務分担を整え、業務を円滑に遂行できるようにする。	・会議においては事前に協議事項の整理と資料の事前配付を行う。計画段階で内容や時間配分の検討を行う。両者とも開始時に終了時刻を明確に示す。業務分担の調整を図ったり、協力しやすい環境づくりを行ったりする。	㉒	B	
中学部第2学年	自分の目当てや見通しをもちながら日々の学校生活を送ることで、「やってみよう」という気持ちを育みながら、より実践的な学力の育成を図る。	・学習内容や目標について生徒が見通しをもつことができるよう、本校の板書についてのガイドラインを参考にしながら板書を工夫したり、個に応じた提示の仕方を工夫したりする。各授業においては、基礎・基本の学力を活かしながら日常生活に根差した内容を行えるようにする。	①⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を統一した形式で生徒に提示することで、分かりやすい板書にすることができ、学習内容に見通しをもって取り組むことができていた。今後は、ICTの活用をより活発に行えることよい。 ・評価を確実に行うことができた。称賛することで、「次もがんばろう」という意欲につなげることができた。「身に付いた知識や技能を活かせる場面設定」については、授業では分かっているが、実際の場面ではまだ不十分な面が見られるため、継続した指導が必要である。さらに、コロナ禍において校外学習や、職場体験などの機会をもつことが難しいため、コロナ禍でもできることを検討していかなければならない。 ・「挨拶」、「返事」、「丁寧な言葉遣い」など、学年全体で意識して取り組むことができ、身についてきた。「他者との適切な距離感」については、まだ十分に理解できていない生徒が多かった。手をつないだり抱きついたりする以外の方法での気持ちの伝え方や、断り方などの指導の機会を増やす必要がある。 ・月の学習予定を事前に回覧することで、時間の短縮になった。また、協議内容を整理して提示することでスムーズに学年会を行うことができた。
	学校生活の中での「わかった」「できた」を増やし、各授業や係活動等で達成感や自己肯定感を感じられるようにすることで、自ら取り組もうとする態度を育めるようにする。	・一人ひとりのできることを増やし、できたときには称賛したり、感謝の気持ちを伝えたりするとともに、身に付いた知識や技能を活かせる学習場面や日常生活場面を設定する。	①⑥⑧	B	
	「挨拶」「返事」「言葉遣い」「他者との適切な距離感」を意識して生活することで基礎的なコミュニケーション力の向上を図る。	・生活年齢を考慮した中学部生として相応しい態度で生活することができるよう、日々の生活の中や各授業時間で挨拶や返事、言葉遣いについての意識や意欲を高めるとともに、委員会やクラブ活動では他学年の生徒との交流の場面を積極的に設定する。	⑪	B	
	学年会の時間を50分以内に終わることができるようにするとともに、学年間やクラス間で教材準備や学級運営にかかわる仕事の分担を行い、業務を円滑に遂行できるようにする。	・学年会では、協議事項を円滑に進められるよう、事前に回覧可能な資料や文書については予め周知や共通理解を図るとともに、仕事分担の調整を図ったり、協力しやすい環境づくりを行ったりする。	㉒	A	

中学部第3学年	<p>個々の発達段階や特性に応じた学習指導の充実のため、各教科等の授業で得た知識を相互に関連づけたり生活の場面で活用したりする力を育成できる単元や題材設定を行い、活動への意欲を高める。</p>	<p>・個々の発達段階や特性等の実態把握に基づき、生徒の課題と目標を明確にし、教員間で支援や教材について共通理解を図り、段階的、教科横断的な指導を行う。</p>	①⑦	A	<p>・学年会で生徒の重点目標や自立活動の短期目標を全職員で話し合いながら目標設定したことで、生徒の実態把握を含め、担任だけでなく、学年全体で生徒一人一人の課題や目標を明確にし、共通理解を図りながら一貫した指導を行うことができた。</p> <p>・コロナ禍で、進路指導や職業体験等の学習が大幅に制限せざるをえなかった。修学旅行においても、中止となってしまったが、「VR修学旅行」と題して、保護者の要望や生徒たちのアイデアを盛り込んで各教科で生徒主体の活動を展開し、行事を成功させることができた。</p> <p>・最高学年として、生徒会や委員会活動、作業学習などで他の学年と一緒に活動しながらリーダー的な立場として積極的に前に出て活動する場面をつくることができた。また、特体連スポーツ大会や美術コンクール等で、生徒の長所を生かして学習の成果を校外外に発表することができた。様々な活動や成果を通して、生徒一人一人が自己肯定感を高めることができた。</p> <p>・会議や研修など必要な時間を確保しつつ、定時までには会議等を終わらせることができるよう、事前に会議のレジメを配布したり、朝C棟でスタンディングミーティングを行ったりした。いなくネットの活用を呼び掛けながら、スタンディングミーティングを行い、連絡や共通理解の徹底を図ることができた。</p>
	<p>できることに自ら取り組もうとするよう、既得の知識や技能を活用しながら学習課題に取り組んだり、初めて経験する活動にも自らやってみようと挑戦したりする態度を育成する。</p>	<p>・様々な学習活動で、思考・判断・表現の機会を設けながら、日常生活や将来の生活に結び付くような知識、技能、態度を身に付けられる授業実践を行う。</p>	③⑧	B	
	<p>同学年や他学年と一緒に活動する喜びや集団での活動に達成感を味わうことができるよう、望ましい人間関係や協力して活動できる力を育成する。</p>	<p>・生徒一人一人が自己肯定感を高められるよう、教師の言葉かけや称賛する場面の工夫を行う。</p>	④	B	
	<p>学年会等の諸会議や研修を、毎回勤務時間内に終了する。</p>	<p>・安心して友だちと関わったり、自信をもって自ら関わろうとしたりできるよう、同学年や他学年と一緒に活動する際に指導形態の工夫を行う。</p>	⑥	B	
	<p>学年会等の諸会議や研修を、毎回勤務時間内に終了する。</p>	<p>・会議においては、事前に協議事項の精選を行い、資料を事前に配布する。研修においては、計画段階で内容や時間配分の検討を行う。</p>	⑫	A	
中学部・なのはな教室	<p>個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対する意識を育てる。</p>	<p>・生徒の身体全体の動かしやすさ・動かしにくさを共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操の際は、言葉かけをしながら、身体の部位にふれ、ボディイメージがもてるようにする。</p>	①②	A	<p>・コロナ禍ではあるが、身体介助の際に生徒との密接は避けられないため、かわる職員の健康管理に留意していく。</p> <p>・今年度は他の生徒の支援に移る際は必ず手指消毒又は手洗いを徹底して行ってきたが、来年度も継続していく。</p> <p>・来年度以降も、生徒の表情や発声、行動等、自発性を育めるような継続した学習支援を行っていく。</p>
	<p>個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の感情や意思を周りに伝えることができるようにする。</p>	<p>・五感を使った活動に繰り返し取り組みながら、自ら行おうとする気持ちを引き出す。</p> <p>・豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。</p> <p>・選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。</p>	①②③	A	
	<p>生徒にとってよりよい環境設定や適切な支援が行えるようにする。</p>	<p>・保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、外部講師(PT/OT/ST)との連携を図る。</p>	⑩⑪	A	
	<p>生徒の情報や教材教具の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。</p>	<p>・生徒の情報の連絡、相談を円滑に行ったり、作成した教材教具の共有を適宜行うことで、効率的且つ業務のスリム化を図る。</p>	⑬	B	

高等部	将来の生活を具体的にイメージできるよう、系統性を踏まえたキャリア教育の充実を努め、学びに向かう力や働く意欲を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業科や作業学習、デュアル型実習や校内・現場実習などでワークキャリアの一層の充実を図るとともに、卒業後に主体的に生きるために必要なライフキャリア(余暇の過ごし方やお金、時間の使い方についての学習など)の充実を図る。 ・個々の困難さに着目し、適切な目標設定のもと、自立活動の時間の充実を図り、限られた時間の中で活動や行事等の精選を行い、自立活動の視点や他学部との系統性をもって教科指導に取り組む。 	⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・デュアル型実習については、計画はしていたものの新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期(保留)になった。今後も、感染症対策も考慮した学習内容(校外学習等の行事も含む)の検討が必要である。 ・各授業において、タブレット等を活用した振り返りをきちんと行うことで、個々の困難さや課題に気づき、次の目標設定に生かすことができた。引き続き、生徒一人一人の課題や実態を把握し、課題克服に向けた目標設定の検討を進めていく。 ・高等部全体で、教員が模範となり、挨拶、返事、身だしなみ等の意識付けができた。課題としては、場面に応じての挨拶(言葉遣い)であったり、物の管理(紛失、常備するものなど)が挙げられる。 ・今年度は、作業製品の販売活動や対外的な販売活動はできなかったが、学校公開期間中、ホームページ上でのアピールができた。今後も効果的なアピールの方法について検討していく。 ・会議については、学部会、学年会、コース会ではかる内容を必要に応じて主任チーフ会で確認することで、スムーズな会議運営できるよう話し合う内容や連絡事項などを端的にしていく。 	
	生徒の自己肯定感を高めながら、自ら課題を見つけ、解決するために必要な思考力や判断力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の力で最後まで取り組むことができるような環境設定(マニュアルや手順表などの活用)や、見通しをもつための視覚的教材やICT教材などを積極的に活用し、活動場面の構造化に努め、学年・コースの教員間でねらいに応じた支援ができるよう共通理解し実践する。 	②④			A
	地域社会の一員として、充実した生活を営むことができるように、望ましい態度や知識、生活習慣の形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な挨拶、返事、報告、マナー、身だしなみなどが身に付くよう教員が模範となる意識をもち、学校生活において実践する。 ・地域との協働を目指し、来校者に対して丁寧な対応(挨拶、案内等)、作業製品の販売等、アピールする機会を設ける。 	⑧ ⑬			
	会議の効率化を図り、業務のスリム化や教材研究の時間の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて主任・チーフ会等を設け、検討事項や周知する内容等の共通理解を行い、スムーズな学年会、コース会、学部会を進めることで、業務の効率化と教材研究の充実を図る。 	⑫			
職業自立	卒業後の生活について具体的なイメージが持てるように、系統性を踏まえたキャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択することができる意欲や態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携を密にとり、校内・現場実習やデュアル型実習など体験型の学習の充実を図ることで、生徒が望ましい「勤労観・職業観」を育み、進路に対する関心・意欲を高め、主体的に進路選択することができるようにする。 ・充実した生活をするために必要な金銭感覚、余暇の過ごし方、また衣食住に関する知識・技能を国語科、数学科、職業科、家庭科の時間に重点的に取り組み、一人一人の発達課題や障害の特性、心身の状態や実態に応じた小グループ編成で学習環境を整え、自立活動の視点を踏まえた指導を行う。 	⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、現場実習やデュアル型実習など日程がずれてしまい、見通しがもてなかったが、個別に目標を設定し、各授業において卒業後の生活を想定した内容を多く取り入れたことで、より充実した内容になった。(数学では、小遣い帳の付け方の中で四捨五入や概算の計算を入れて行った。) ・作業学習において、生徒たち自身が自分たちで話し合い活動を通じて、責任の所在をはっきりさせたことで、生徒が自覚をもって取り組めた。また、作業の注文票を活用し、フィードバックしたことで、生徒たちの作業に対する取り組み方にも変化が出てきた。 ・感染症対策として、必要に応じてMeetを活用した授業を行った。 ・挨拶や返事、身だしなみ等については、作業学習を中心に6Sを取り入れて、日常生活の中でも活かせるように指導を行ったことで、自分から挨拶をする生徒が以前よりも増えてきた。 ・食生活や生活習慣については、栄養教諭と連携し、生徒自身で自分の普段の食生活を見直せるような、チェックシートを活用したことで、体重等にも変化が現れ、自己管理意識が高まった。 ・生徒が主体となつて行う活動については、3か月に1度見直し機会をとることが難しかったが、校内・現場実習等を通じて、事前や事後学習で振り返りを行ったことで、それぞれの自己課題に焦点をあてられるようになってきた。 ・自立活動において、アサーショントレーニングを行ったことで、お互いの意見を大切にすることを ・会議の効率化を図るため、Googleの共有ドライブを活用したことで、お互いに共通理解を図ることができた。 	
	生徒が自己効力感を高められるよう、日々の学習活動において成功体験を繰り返すことで、自己課題の問題解決力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、係活動、清掃活動、学年内のチーム活動等とおして、生徒が主体となって活動を計画実施する学習を設定し、3ヶ月に1度それぞれの生徒の課題達成状況から見直しを行い、適切な課題設定をその都度設定する。 ・作業学習、校内・現場実習やデュアル型実習などにおいて、「①目標設定→②学習→③反省→④改善」を行い、生徒自身にフィードバックできるよう、i-padなどを用いて記録した動画を活用し、自己評価をしたり、課題を明確にしたりする場を設定し、改善するためにどうすればよいか話し合うようにする。また、サービス班の受注業務においては、年間50件の受注達成を目指す。 	②⑥			B
	自己の個性を発揮し、様々な人々とかかわりの場や活動の充実を図るとともに、社会生活に望ましい態度や知識・技能を身に付け、自らの生活を管理する力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事、身だしなみ、言葉遣い、マナー、食生活、生活習慣等について、国語科、数学科、家庭科、職業科などの教科学習や個別指導において重点的に取り組み、学校と家庭でお互いの役割を確認し、連携しながら支援を行う。 ・来校者への接客をおとして、様々な人とかかわる場を年間10件以上計画し、交流を図る。 	②⑧ ②③			
	定例会議以外での、短時間での打ち合わせ時間を設け、会議を効率的に行い、業務のスリム化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に授業の担当割り振りを行い、会議等での検討事項の精選や会議時間の終了目標時間を予め設定し、効率化を図る。 	⑥⑬⑱			

職業基礎	将来の生活を具体的にイメージできるように、キャリア教育の充実に努め、社会生活に必要な基礎的な知識・技能・態度の育成を図り、働く意欲を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識・技能を職業科や家庭科の時間に重点的に取り組み、実態に応じたグループで学習環境を整え、自立活動の視点を踏まえた指導を行う。 	③④	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と連携して、現場実習・デュアル実習を計画してきた。コロナウイルスの影響で、日程の変更が相次いだ。その都度3・4コースで授業調整していくことで、個別に進路学習の時間を設け、例年と同じ程度の時間を事前・事後学習として確保することができた。年間指導計画に今後どのように位置づけるかが課題である。 卒業生の就職先や生活モデルを提示し、自分の生活を考えることで、学校卒業後の社会生活や働く姿をイメージすることができた。 Meet会議を使用することで、ソーシャルディスタンスをとりながら、実習報告会を行うことができた。例年の報告会と違い、事前に作成した動画も活用することで、1年生にとっては、発表を聞く場・質問を考える場を分けて時間をとることで理解が深まった。また、2・3年生にとっても、質問に対する答えを考える時間を十分にとることができた。今後の報告会の持ち方について、今年度をベースに検討する必要がある。 今年度の校外実習は、実施しない。 作業学習においては、Meet会議を使用して、朝礼・終礼を行うことで、リモートにおけるコミュニケーションの基礎的な知識や使用方法を学ぶことができた。今後、リモートにおけるコミュニケーションの基礎的な知識理解を深める場が必要である。 作業学習においては、1年生の清掃基礎において、2・3年生から指導の場をもつことで、1年生にとっては基本的な清掃(窓・床)の知識・技能を深めることができた。2・3年生にとっては、教えることで自らの清掃基礎を確認できた。また、相手に正しく伝えるコミュニケーション力の向上につながった。後輩に教える成功体験を積み重ねることで、自己肯定感の育成につながった。年間指導計画の位置づけに検討が必要である。 トレーニングに関しては、コロナウイルス対応の時間割で学年別を実施することで、更衣室の密を避け、7分間走やダンスなど体を動かす活動時間を確保することができた。更衣室の利用方法については、今後検討が必要である。 会議では、①作業担当者会②3・4コース会③3コース会の順で実施することで、協議の要点をしばり意見を交換したり授業調整をスムーズに行うことができた。今後は、学年との授業調整の場を設定していく必要がある。 Meet会議や教育情報ネットを使用することで、資料をデータで加除訂正したり、配付・再配付したりすることで、ペーパーレスの推進や会議の効率化につなげることができた。
	友だちや教師とのかかわりの中で、好ましい人間関係を育み、自己肯定感を高めるとともに、自己選択や意志決定する力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と連携しながら、一般就労(一般企業・特例子会社)・福祉的就労の基礎的な知識や働く意欲を育むとともに主体的に進路選択できるよう、実習の充実を図る。また、特例子会社や福祉施設への校外学習を年間1回計画実施し、卒業生の働いている現場を見学することで、進路選択の一助とする。 作業学習において、生徒の自己肯定感を高めるために、生徒の実態や特性に応じた適材適所の作業班編成を行い、責任をもって活動できるよう生徒同士でチェックシートを活用して、指摘・確認・反省・改善ができるようにする。 	⑧⑨		
	豊かな生活を営むことができるように、社会生活に必要な基礎的な知識及び望ましい態度を育むとともに、生活習慣の形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習において、生徒の自己肯定感を高めるために、生徒の実態や特性に応じた適材適所の作業班編成を行い、責任をもって活動できるよう生徒同士でチェックシートを活用して、指摘・確認・反省・改善ができるようにする。 学級活動、係活動、清掃活動、学年内のチーム活動等とおして、生徒同士話し合いの場を計画的に設定し、課題解決に向けて、生徒同士が意見を交わし、決定する課題設定を計画する。 社会生活に必要な「挨拶」「返事」「報告」「連絡」「相談」など、基礎的なコミュニケーション能力を育てられるよう、作業学習・職業科の時間にその機会を計画的に設定する。また、作業製品販売計画において、コースとして年間3回以上の販売機会を計画し、実施する。 トレーニングとおして、7分間一定のペースで走り続けられる体力や、自立活動の時間でディベート学習等とおして、話し合いの調整能力を養う。 	⑥⑧ ④⑧ ⑥⑯ ⑦⑧	A B	
	作業担当者会・3・4コース会・3コース会の会議を同日・終了時刻を決め、設定し会議の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 協議・検討事項の内容・目的を明確にするために、会議を分けて設定する。担当者間の打ち合わせを短時間で、機会を増やすように設定する。 	⑳	A	

生活自立	<p>将来の生活をイメージできるようにキャリア教育の充実に努め、体験的な学習をとおして、進んで学びに向かう態度や、社会生活に向けての基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度等に応じての学年ベースのグループを編成(国・数など)したり、生徒の特性に応じた自立活動の区分ごとの縦割りグループの編成をしたりして、一人一人に応じた細かい指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。 ・理科授業や英語活動など、生徒の関心が高い内容での体験的な学習を実施し、進んで実験や活動に取り組み、自ら学ぶ態度を養い、知識の習得を図る。 	⑥⑧⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた細かな指導ができ、基本的な知識・技能の習得につなげることができた。自立活動のグループについては、生徒によっては通年で同じではなく様々な力をつけるために、前期終了後に再編成することも必要である。 ・理科実験などの直接体験(外部講師や担当教師による授業)やALTとのダイアログなどの英語活動をしたことで、主体的な学習ができ、生徒は大変意欲的に取り組むことができた。次年度は、生徒の実態によっていくつかの課題を提示したり、習熟度によるグループ編成なども必要である。 ・朝の一連の活動(着替え、国数の個別学習、トレーニング)を各々の活動の開始時間を意識して活動することができた。しかし、時間の見通しがもてず開始時間に遅れる生徒が少し見られたため、タイマーを提示するなどして、全生徒の定着を図っていきたい。 ・感染症対策でMeetによる授業やリモートでの発表などを展開することができた。次年度も新型コロナウイルスの流行が続くことを想定すると、多くの教科で発表だけでなく、話し合い活動などMeetを使用した授業を増やしていきたい。 ・コース会の前に各教科チーフや担当者に議題を提示し、各グループで検討する機会を更に多く設けていきたい。
	<p>生徒の自己肯定感を高め、日常生活動作や作業学習などに時間を意識しながら進んで取り組み、集団活動の中で自分の力を発揮する態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の一連の活動(着替え、個別学習、トレーニング、朝の会)において、開始時間を守り、集団でのルールを守りながら取り組んだり、自分の課題を最後までやり遂げたりできるように、タイマーを提示したり、イラストや映像など視覚的教材で示したり、個に応じた教材を提示したりしながら定着を図る。作業学習において、拡大した手順表の提示や1工程ごとの詳しい説明を行い、作業中頻繁に教師が称賛することで、自己肯定感をもてるようにする。 	②④	A A	
	<p>社会生活に必要なコミュニケーション力と態度を育成し、日常生活で実践できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の実態に応じて、言葉だけでなく、視覚の手掛かり、ICT(プロジェクター、iPad、PC、Voice Ruler)も積極的に活用する。自分から場に応じた挨拶、返事、支援依頼、報告等の発信を適切な声量でできるように、日常生活や各教科、校内・現場実習において、繰り返しの指導や場面設定での定着を促す場を設ける。 	③④	A	
	<p>コース会の時間短縮と教材の共有化を行い、業務のスリム化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コース会の1週間前に各教科チーフや担当者に議題を提示し、予めグループ内で検討する機会を設ける。 ・教材室を作業種や教科ごとに教材を配置したり、教材のデータフォルダを作成したりして、瞬時に必要な教材を探して使用できるようにする。 	②③	B	
生活基礎	<p>将来の生活をイメージできるように、キャリア教育を通して、主体的に物や人へかかわろうとする意欲を高め、自己決定、選択する力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の状況を踏まえながら、月2回授業内容の検討し、支援に対する評価及び考察を行う。生徒に活動内容を提示する際は、自ら意思決定しやすいようにいくつかの選択肢から選ぶ活動を多く設定する。 ・学習到達度チェックリストやS-M社会生活能力検査などのアセスメントを全員に実施、活用し、客観的評価を基にした授業実践を行ったり、進路指導部と連携し、校内実習などで進路先の状況を踏まえた活動内容を取り入れたりする。 	⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態の多様化や事業所の活動内容も時代に応じて変化してきているため、進路指導部などとさらに連携し、情報収集、実情に即した教材の準備などを行っていく必要がある。 ・学習グループ内で支援方法についての共通理解を持った上で実践し、その都度、振り返りを行うことで、生徒の小さな変化を見逃さずに情報を共有した。今後も継続していくために日々のミーティング持ち方などを検討していく必要がある。 ・生徒の実態に応じて、タブレット端末、カード、サインなどを使い分けながら、コミュニケーション能力の向上を図ったが、使用する場面がまだ限定的であるため、実態に応じて活用方法のバリエーションや使用機会を増やしていきたい。 ・終了時刻を大幅に超えることは少なかったが、議題が集中すると時間内で終えることが難しかった。できるだけ議事が集中しないように計画的に進めていく。
	<p>基本的な生活習慣の確立を目指して成就感、達成感を多く経験することで自己肯定感を高め、最後までやり遂げる態度を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の支援を受け入れながら、20分以内で着替えなどの身辺処理を行うことができるよう、スモールステップで取り組む。 	②④	A B	
	<p>周囲への適切なコミュニケーション手段を獲得し、生活の中で活用できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、他者への伝達手段を発語だけでなく、必要に応じてICT教材やカード、サインなどで伝えられたり、他者からのかかわりをスムーズに受け入れることができるよう、信頼関係の構築や繰り返しの指導で定着を促す。 	②③	B	
	<p>会議の持ち方の検討等、協議、業務の効率化を図り、効果的なコース運営をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コース内でサブ的な役割を決め、会議等の業務の前に内容の精選や方向性を共に確認する。会議は、レジュメで内容を整理したものをもとに臨むことで会議の勤務時間内終了を意識できるようにする。 	②	B	